

『ドイツ語文化圏研究』 第10号 抜刷
2013年12月1日発行

日本語らしい「地上の視点」を探る
— 宮部みゆきの『火車』における恩恵授受表現の
ドイツ語訳を手がかりに —

Was ist eine typisch japanische „irdische Perspektive“?

— Anhand einer Gegenüberstellung von Miyabe Miyukis Roman
„Feuerwagen“ mit der deutschen Übersetzung —

宮内 伸子

MIYAUCHI, Nobuko

日本独文学会北陸支部

日本語らしい「地上の視点」を探る

— 宮部みゆきの『火車』における恩恵授受表現のドイツ語訳を手がかりに —¹

宮内 伸子

1. はじめに

宮部みゆき（1960年生まれ）は作品の質・量ともにトップクラスの、当代日本を代表する人気・実力を兼ね備えた作家の一人である。² 映画やテレビドラマになった作品も多い。宮部の作品には決定的な悪人は登場しない。そのような作家の温かな人間観も、多くの人々の支持を集めている一因であろう。

カナダ在住の日本語研究者金谷武洋は、その著書『日本語は亡びない』の中で、日本的視点の表現者として宮部みゆきと中島みゆきの二人に言及している。³ 金谷によれば、この二人の作品には、日本語らしい「地上の視点」

¹ 本稿は日本独文学会北陸支部研究発表会（2012年11月10日、於：金沢）での口頭発表「日本語らしい「地上の視点」を探る—宮部みゆきの『火車』のドイツ語訳を手がかりに—」に修正を加えまとめたものである。

² 宮部みゆきの主な作品や受賞歴：

1987年『我が隣人の犯罪』オール読物推理小説新人賞受賞

1989年『魔術はささやく』日本推理サスペンス大賞受賞

1992年『龍は眠る』日本推理作家協会賞、『本所深川ふしぎ草紙』吉川英治文学新人賞受賞

1993年『火車』山本周五郎賞受賞

1997年『蒲生邸事件』日本SF大賞受賞

1999年『理由』直木賞受賞

2001年『模倣犯』毎日出版文化賞特別賞受賞

2002年 司馬遼太郎賞、芸術選奨文部科学大臣賞（文学部門）受賞

2007年『名もなき毒』吉川英治文学賞受賞

他に、『ブレイブ・ストーリー』『ぼんくら』『孤宿の人』『楽園』『英雄の書』などがあり、現在も旺盛な執筆活動を続け、次々に話題作を発表している。

³ 『日本語は亡びない』（2010年刊）は、水村美苗の『日本語が亡びるとき』（2008年刊）に反論する形で書かれた。ちなみに水村のこの著書はベストセラーとなり、2009年度の小林秀雄賞も受賞した。金谷のこの著作は三部構成で、その第三部「二人のみゆき：日本的視点の表現者」において、宮部みゆきと中島みゆきそれぞれの作品

が顕著にうかがわれ、日本人の感性を代表しているという。「日本語の文は「地上の視点」が基本の立ち位置で、人類はすべてどこかで繋がっているという共存・共生を前提とする。」と金谷は述べている。⁴ 一方、英語話者の視点は、「地上を離れて上空高く舞い上がり、不動の「神の視点」を持つに至った」⁵ という。このような言語による視点の違いは、物語を綴る際にも影響を及ぼさずにはないだろう。

筆者はここ数年、翻訳という二つの言語が出会う場に注目し、日本語文学作品とそのドイツ語訳を対照させて読むという作業に取り組んでいるが、本稿では宮部みゆきの代表作の一つである『火車』を取り上げ、そのドイツ語訳を手がかりに、金谷のいう日本語らしい「地上の視点」を探ってみたいと思う。原作とドイツ語訳を対照させることで、それがどのような日本語表現によっているかを突きとめ、それらをドイツ語に訳す際の対応方法を確認していく。さらに、そういう表現を好む日本語社会についても考えを巡らせてみたい。

『火車』原作は1992年の発表である。1998年に文庫化され、その新潮文庫版は2012年4月時点で70刷と増刷を重ねている。ドイツ語版(*Feuerwagen*)は2011年に出たばかりで、これが宮部作品初のドイツ語訳である。訳者 Ralph Degen はあとがきで、宮部の作品は複雑な背景と複雑なストーリーをもつにもかかわらず、やさしい日本語で書かれていると述べている。⁶ ちなみに、英語には現在すでに8作の宮部作品が翻訳されている。『火車』の英語訳 (*All*

について詳述し考察を加えている。

⁴ 金谷 (2010) : 184 頁。宮部が東京深川という下町で生まれ育ったことも、共存・共生というこの作家の考え方を醸成したことだろう。ドイツ語版の翻訳者も、宮部の下町育ちが作品に影響していることについてあとがきで言及している (Degen (2011) : S.387)。また物語の舞台も、現代物、時代物を問わず、ほぼ例外なく下町である。

⁵ 金谷 (2010) : 79 頁。

⁶ Degen (2011) : S.388。

she was worth) は 1996 年が初出である。ただし、この Alfred Birnbaum による英語訳⁷は、原作のストーリー展開は忠実に追っているものの、細かな部分はあちこちカットし、またなぜか登場人物の名前にまで手を加えている。⁸なお本稿は原作とドイツ語訳の比較を課題とするが、参考までに文例には英語訳も添え適宜言及することにする。

2. 恩恵授受の表現

さて、『火車』原作をドイツ語訳と突き合わせつつあらためて読んでみると、「やりもらい表現」を補助動詞とした恩恵授受の表現「てやる・てくれる・てもらう」が頻出し、⁹それがドイツ語に訳しにくそうだと気づく。さらに、『火車』は三人称で書かれてはいるが、語りの視点（視座）が作中人物の本間俊介に固定されているのは明らかであり（ほぼこのまま、本間の手記という形にして一人称小説にしてしまうことも可能だろう）、このことと関係するが、地の文においてもこの種の恩恵授受表現が多用されていて、¹⁰

⁷ アルフレッド・バーンバウムは村上春樹作品の英語訳も何点か手がけているが、その翻訳の姿勢について村上春樹は次のように述べている。「彼はある場合には自分の好きなように訳すんです。正確かどうかよりは、出来上がりのかたちを重視する。だからわりに自由自在にやって、部分的に適当に削ったりもする、勝手に（笑）」（村上/柴田（2000）：18頁）バーンバウムによる翻訳に限らず、英語訳には英語の読み物としての完成度や整合性を追及する傾向が見られ、よしもとばななも、英語訳はまるで違う作品になってしまうか、あらすじの紹介になってしまうことがよくある、と述べている（ジェレヴィーニ/よしもと（2002）：27頁）。

⁸ 本間俊介の息子の智はマコトに、同僚の碓はフナキに、和也はジュンに、片瀬はワダに、こずえはエミに変えられている。

⁹ とりわけ、「てくれる」が目につく。庵（2011）：57頁に、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ、2009年度モニター版）で調査した恩恵授受表現の出現頻度数が紹介されているが、それによれば「てくれる」が「てあげる」「てもらう」より頻度が高いのは一般的な傾向でもある。

¹⁰ 語り手が全知の神の視点にあるならば、地の文において恩恵の与え手や受け手を明示しない構文での恩恵授受表現は出現しないはずである。語り手が作中人物の一人と視点を重ねている、つまり人間の物語が展開する地上に臨場しているために、その人物（『火車』では本間）が他者と触れ合うなかで生じるさまざまな行為を、恩恵のやり取りとして認知し、そのように表現するのではないだろうか。

それが宮部作品にうかがわれる共存・共生の思想を反映する日本語らしい（＝日本語が得意とする）表現の一つであることにも気づかされる。本稿では、『火車』に頻出する恩恵授受表現を、冒頭で紹介した金谷のいう日本語らしい「地上の視点」に適った言語手段と捉え、考察を進める。

『火車』からの文例を紹介していく前に、日本語の「やりもらい表現」について簡単にまとめておきたい。日本語は世界の言語の中でもっとも複雑な「やりもらい表現」をもっているといわれる。下の表で、「やる、くれる、もらう」の使い分けの様子を見ていただきたい。

「やる、くれる、もらう」の関係¹¹

| | | | |
|-----|---------|----------|-------------|
| | やる、あげる | くれる、くださる | もらう、いただく |
| 与え手 | 主格（～が） | | 目的格（～に、～から） |
| 受け手 | 目的格（～に） | | 主格（～が） |
| 視点 | 主格（与え手） | 目的格（受け手） | 主格（受け手） |

このように日本語においては、モノの授受を表す動詞は「やる、くれる、もらう」の三項対立として存在している。しかし、このような三項対立をもつ言語はきわめてまれだという。「くれる」にあたる動詞の存在は特殊らしい。¹² さらに日本語のこれらの動詞は、モノのやりもらいを表現する本動詞としてのみならず、「てやる、てくれる、てもらう」という形で恩恵授受を表す補助動詞としても使われる。恩恵授受とは、「思いやりのやり取り」と言い換えるとわかりやすいだろう。日本語は、思いやりのやり取りを明示的

¹¹ 庵（2011）：51頁掲載の表を参考にして作成した。

¹² 山田（2004）：334-341頁、山田（2011）：5頁。山田はまた、「やる、くれる」の補助動詞用法について、「テヤルとテクレルのような、話者からの方向性によって形式が分化するのは日本語だけである。」とも述べている（山田（2004）：354頁）。

に表現するのが好む傾向があるようだ。

3. 日本語原作とドイツ語訳の比較

日本語が好む表現であり、『火車』でも多用されている恩恵授受表現は、ドイツ語に翻訳する際どのように処理されているのだろうか。山田敏弘は、「英語などの言語は give や receive に相当する動詞を補助動詞として用いることによって恩恵を表示する方略を持たない。恩恵的行為の表示はもっぱら前置詞などによって受益者の述語との関係を表す、いわば格表示によって表される。」¹³ と述べている。『火車』のドイツ語訳においても、原文には恩恵を受ける人物が明示されていないのに、ドイツ語訳では、3格あるいは前置詞格で恩恵の受け手を明示しているケースが多々見られた。というのも、「てくれる」等の補助動詞は受益者が誰であることを示す機能も併せもっているからである。

以下、恩恵授受を表す補助動詞のうちで、一番多用され、また意味的にも共存・共生の思想の表現にもっとも適していると考えられる「てくれる」（というのも、「てくれる」は相手の思いやりに話者が気づいていることの表明でもあるから）を中心に、『火車』からの文例とその翻訳を紹介していきたい。その際、原則として地の文に出現する用例に限ったが、それは作中人物のせりふ中の表現ではその人物に作者が付与したものの見方が反映されるが、地の文ならば——この小説が作中人物の本間の視点から描かれているとはいえ——そこに作者の肉声（地上の視点から発せられた）を聞くことができると考えたためである。¹⁴

¹³ 山田（2004）：342頁。この山田の言を裏付けるように、和独辞書で例えば「してくれる」を引いてみると、etwas tun (für jn) など、前置詞によって受益者と述語動詞との関係を表すドイツ語表現が載せられている（『新コンサイス和独辞典』）。

¹⁴ 熊倉千之は、「〈主観〉を本質とする日本文学」の中で、一人称小説であろうと三人

3.1. 「てくれる」の訳し方

「てくれる」のドイツ語訳は、上で引用した山田敏弘の言にあるように、格表示による対応例が『火車』のドイツ語訳においても多かったが、それ以外の対応もかなり見られた。ここでは訳例を次の4つに分類して紹介していく。

1. 格表示による
2. 視点を逆にする
3. 恩恵の与え手の好意的態度を描写する
4. 特に訳さない

3.1.1. 格表示による

上でも述べたが日本語では、「てくれる」という補助動詞が、誰が恩恵を受けるのかまで含めて示す機能をもつので、受益者をあらためて文中に明示する必要がない。しかしドイツ語には「てくれる」に直接対応するような補助動詞は存在しないため、受益者を明示することで恩恵授受行為の存在を示す必要が出てくる（とはいえ、ドイツ語はそもそも日本語に比して、ある行為を恩恵の授受と関係づけて捉えない傾向はあるから、単にあっさりその行為を示す動詞だけを使って訳されているケースも多い）。ドイツ語の場合、3格を示すことで比較的容易に対応できるようである。そのためか3格を用いた訳例が多かったが、前置詞格による対応も見られた。さらに、*seinetwegen* や *ihretwegen* といった *-wegen* を用いての訳もあった。

(1) 井坂が湯呑みを目の前に置いてくれながら、 / 「あんまり無理はしな

称小説であろうと日本語の作品からは消そうとしても語り手 (= 作者) の声が聞こえてきてしまうことを述べている (熊倉 (2006))。

いほうがいいですな」と言った。(原作 12 頁)

Während ihm Isaka eine Tasse Tee hinstellte, sagte er: »Sie sollten sich nicht so übernehmen.« (ドイツ語訳 S.12)

Isaka set a cup down in front of him. “You should go a bit easier on yourself.” (英語訳 p.11)

(2) 「(…)」と尋ねると、 やっと顔を向けてくれた。(246 頁)

Erst als Homma fragte »(...)«, wandte er ihm endlich das Gesicht zu. (S.168)

“(…),” he asked. / Kikuchi turned toward him. (p.135)

(1) と (2) は恩恵の受け手を 3 格 ihm で明示している例である。英語訳は (1) は in front of him, (2) は toward him と前置詞格で示している。ドイツ語のように目的格を 2 つもたない英語は前置詞を活用する必要のあることが、こんなところでも見て取れる。また、日本語における主語の「省略」は周知のことで、ドイツ語なり英語なりに訳す際には主語を補うのは当然のこととされているが、このような例を見ると目的語もまた同様であることにあらためて気づかされる。

(3) ノックすると、すぐに応答があつて、きびきびした感じの青年がドアを開けてくれた。(71 頁)

Als Homma klopfte, kam sofort eine Antwort und ein lebhafter, junger Mann öffnete ihm die Tür. (S.52)

The door opened at the first knock. “Excuse me just a second,” a young man said breathlessly before racing back to a phone. (p.42)

(3) も 3 格を用いて受益者を示している例であるが、英語訳の方は open を自動詞として使用することで対応している。

(4) 千鶴子が急死し、本間が仕事を休むわけにはいかず、智が物理的にも心理的にもひとりぼっちになってしまったとき、彼の面倒をみたいと真っ先に名乗りをあげてくれたのが、井坂夫妻だった。彼らは、智の心身の状態が落ち着くまで、学校の送り迎えからおねしょの始末まで、すべてをやってくれたのだ。(109 頁)

Als Chizuko plötzlich gestorben war, konnte Homma natürlich nicht einfach aufhören zu arbeiten. Damals hatte sich das Ehepaar Isaka als Erste erboten, sich um Satoru zu kümmern, wenn er alleine und einsam war. Bis er körperlich und seelisch wieder etwas zur Ruhe gekommen war, hatten sie alles für ihn getan. Sie hatten ihn zur Schule gebracht und abgeholt und sich sogar darum gekümmert, wenn er ins Bett gemacht hatte. (S.76f.)

When Chizuko was killed and Honma wasn't able to take an extended leave from work, Makoto had been left on his own. It was the Isakas who came forward and offered to help look after him. They began to see him off to school in the morning and pick him up in the afternoon. They did everything for him. (pp.60-61)

(4) は 3 格ではなしに、für 等の前置詞を用いて、恩恵の受け手を示すという対応例である。(4) は「てくれた」を 2 つ含んでおり、2 つ目の下線部については、ドイツ語訳・英語訳とも、前置詞格目的語 (für ihn, for him) で恩恵の受け手を示している。ただし、1 つ目の下線部については、独英とも「てくれた」に直接対応する表現を欠き、波線下線部のように「名乗りを

あげた、申し出た」のみの訳になっている。このように恩恵授受を特に示さないという対応は多い。上でも述べたが、そもそもドイツ語等のヨーロッパの言語には、日本語ほど恩恵の授受をいちいち明言したいという発想がないというべきであろう。

(5) 机についていた紺色の事務服姿の女性が一人、すぐに立ち上がって出てきてくれた。(45頁)

Eine Frau in dunkelblauer Bürouniform, die an einem Schreibtisch gesessen hatte, stand sofort auf und kam zu Homma. (S.34)

A woman in a dark blue uniform stood up and came over. (p.28)

(5) の、「出てきてくれた」は「出てきた」だけでも同じ様子を表現できるかもしれないが、やはり「出てきた」だけでは、話者の方へ近づいてきたとは断定できないのではないか。ドイツ語は zu を用いた前置詞格で恩恵の受け手を示し、英語訳は over に「てくれる」の方向性表示機能を代替させている。

(6) 大勢の依頼者のなかの一人であったのに、老弁護士は彰子のことを覚えていた。思いやってくれていた。(82-83頁)

Der betagte Anwalt konnte sich an Shōko erinnern, obwohl sie nur eine von vielen Mandantinnen war. Er hatte sich ihretwegen sogar Sorgen gemacht. (S.59)

Only one out of God knows how many clients, but the lawyer remembered her. (p.47)

(7) 無論, 心配してくれているのだということはわかっている。(92 頁)

Natürlich war es Homma klar, dass er sich seinetwegen Sorgen machte.

(S.66)

Homma, of course, understood that Makoto was worried or, more precisely, scared. (p.53)

(6) と (7) は -wegen による対応例である。接尾辞 -wegen は、代名詞の古形につけて「～のために」などを意味する副詞を作る。従って *seinetwegen* や *ihretwegen* 等も格表示に準ずるものと考えてよいだろう。というよりこの形の方が、受益者の表示として強意的である。英語訳は (6) は格表示で対応しているが、(7) では特に訳していない。

3.1.2. 視点を逆にする

「てくれる」と「てやる」は、恩恵の与え手（与益者）と受け手（受益者）の関係は同じだが、視点が逆で、「てくれる」は受益者側、「てやる」は与益者側にある。そこで「てくれる」を訳す際、受益者と与益者を入れ替えて、「てやる」の意味を担うような動詞を用いて対応するとうまくいくケースもある。例えば、動詞 *helfen* を用いての対応がそれである。ちなみに、『新コンサイス和独辞典』では「やる」の項目で補助動詞「てやる」の訳例も挙げ、「コートを着せて（車に乗せて）やる *jm in den Mantel (auf den Wagen) helfen*」を載せている。『現代和独辞典』でも同様に「やる」の項目で、「他人のためにする」の分類の下、「宿題をみてやる *Die Mutter hilft ihm bei den Schularbeiten.*」と「外套を着せてやる *Ich helfe ihr in den Mantel.*」を載せている。

(8) 立ち上がると、抜かりないという感じでみっちゃんがコートを持って構えていて、着せかけてくれようとしたのだが、いかんせん身長が違いすぎるので、うまくいかなかった。(59 頁)

Als Homma aufstand, hielt ihm Mitchan, ganz die Aufmerksamkeit in Person, bereits den Mantel hin. Sie wollte ihm hineinhelpfen, doch wegen des Größenunterschieds klappte es nicht recht. (S.44)

As Honma rose to go, Mitchie rushed over to get his coat and help him on with it, but the difference in their heights made the procedure difficult. (p.36)

(8) は動詞 *helfen* を用いて、主語で示されている人物 (sie = Mitchan) が恩恵を授けていることを表している。受益者も 3 格 (ihm) で明示されている。英語訳もまったく同様の対応をしている。

(8) は *helfen* を用いて、「てくれる」を「てやる」に変換して訳した例、つまり補助動詞部分の視点を逆にしたケースであるが、本動詞部分の視点を逆にするという対応も見られた。

(9) 頼れる人だと信じ、庇護を与えてくれると思っていた倉田康司も、彼の家の財力も、いざというときには彼女を見捨てた。(505 頁)

Und von Kurata Yasushi mit dem ganzen Geld seiner Familie, dem sie vertraut und auf dessen Obhut sie sich verlassen hatte, war sie ebenfalls im Stich gelassen worden, als es darauf ankam. (S.336)

Even her Mr. Wada, whom she'd thought she could depend on — his big, rich family had dropped her like a hot cinder. (p.259)

(9) は、動詞を「庇護を与える」から、視点を逆にして「保護をあてにする」の意の表現に変えて、原文では目的語（「彼女に庇護を与える」）である「彼女」を主語にすえた表現（「彼女が保護をあてにする」）にしている（ドイツ語、英語とも）。なお、英語訳中の Mr.Wada（原作の片瀬）は Mr.Kurata の誤りである。

(10) これまで誰も 聞いてくれなかった話を。(582 頁)

Deine Geschichte, die du bisher niemandem erzählen konntest, (...)
(S.385)

The parts you've never told anyone, (...) (p.296)

(10) は動詞を「聞く」から、視点を逆にして erzählen（語る）に変えて、主客を反対にした表現にして対応している例である。英語も同じ方法を採用している。

3.1.3. 恩恵の与え手の好意的態度を描写する

「てくれる」のもつ恩恵授受感をドイツ語で表すのに、eigens（わざわざ）や nett（親切に）といった副詞を用いて、恩恵の与え手の好意的態度を描写することで対応している例も見られた。¹⁵

¹⁵ 他には extra 等が考えられる。例えば、『現代和独辞典』には「くれる」の項目で次の例を挙げている。「彼が行ってくれた。Er ist extra für mich gegangen.」また『火車』には gewissenhaft（良心的な、誠実な）を用いた次のような例もある。
これが思いがけないほど効果的で、みな誠実に応答してくれる。(333 頁)
Dies stellte sich als unerwartet erfolgreicher Vorwand heraus, denn alle antworteten sehr gewissenhaft. (S.225)
(...), which proved far more effective than he ever hoped. People wanted to help.
(p.179)

ただし英語訳は、本稿 3.1.2. 節で述べた help を用いた訳になっている。

(11) すると、昼すぎに、彼が水元まで足を運んできてくれたのだった。(371 頁)

Daraufhin war Ikari am frühen Nachmittag eigens bis nach Mizumoto gekommen. (S.249)

Funaki had dropped everything and come straight over, arriving early in the afternoon and (...) (p.197)

(11) は、eigens を用いての訳例で、恩恵の与え手（彼＝碓）の思いやりある行動を表現している。英語訳は、drop everything（すべてを打ち捨てて）で、フナキ（原作の碓）がわざわざ行なったという感じを出している。

(12) すぐに調べてくれた。(66 頁)

Sie war so nett, sofort nachzuschauen. (S.48)

She had a few quick, muffled exchanges with her boss, then reported back. (p.39)

(12) は nett を使い zu 不定句と組み合わせて、この文の主語である人物の思いやりある様子を現している。英語訳は back によって、恩恵授受の方向性を示している。

(13) 十一時をすぎ、そろそろ今夜はやめておいた方がいいかもしれないというとき、さなきだに意地悪な捜し物の神は、こちらを向いて微笑む気を起こしてくれた。(557-558 頁)

Es war bereits nach elf und sie überlegten, ob sie für diesen Tag nicht lieber Schluss machen sollten, als ihnen der gehässige Gott des Suchens

doch noch ein Lächeln zu schenken bereit war. (S.369)

(14) 無論，新城番子の写真になど，まともにとりあってもくれなかった。

(411 頁)

Natürlich hatte er es auch nicht für notwendig gehalten, sich das Foto von Shinjō Kyōko genauer anzusehen. (S.275)

Naturally, he didn't bother to look at the photo of Kyoko Shinjo. (p.216)

(15) 須藤薫は，快く承知してくれた。(499 頁)

Sie hatte nichts dagegen gehabt. (S.333)

This was fine with her. (p.257)

(13) は bereit sein (英語は対応部分の訳なし)，(14) は für notwendig halten (15) は nichts dagegen haben と，用いている表現はさまざまだが，いずれも恩恵の与え手の好意的態度を描写することによって「てくれる(てくれた)」に対応している例である。ただし(14)は否定形なので，非好意的態度の描写となっている。

3.1.4. 特に訳さない

すでに繰り返し述べているが，ヨーロッパの言語は，日本語ほどある行為を恩恵の授受と関係づけて表現しようという志向をもたないため，「てくれる」の部分の特に訳さないという対応は少なくなかった。

(16) ——番号案内の担当員が応答してくれるまでのあいだに，そんなことを考えていた。(61 頁)

(...), dachte Homma, während er darauf wartete, dass sich bei der Telefonauskunft jemand meldete. (S.44)

番号案内の担当員が応答するのは任務の単なる遂行であるから、この行為に恩恵の授受があると考えないのは当然ともいえる。ドイツ語では単に「応答した」ですませている。英語訳はこのくだりはカットしている。しかし日本語では、単なる任務の遂行に対しても、それどころか、本来無情であるものにさえ恩恵を感じ、例えば天気に対して「晴れてくれた」などと言ったりするのである。

(17) 応援に駆けつけてくれた久恵に宥められて、やっと泣きやんでくれたときには、まわりの男連中はみなホッと胸を撫でおろしたものだ。
(491 頁)

Nachdem Hisae, die ihnen zu Hilfe gekommen war, ihn beschwichtigt hatte, hatte er endlich aufgehört zu weinen, und die Männer konnten vor Erleichterung wieder aufatmen. (S.328)

(...), he'd done almost nothing but cry, and Honma hadn't known how to help. In the end Makoto had gone to Aunt Hisae for sympathy, which let Honma off the hook. (p.253)

(17) は子どもが泣き止むという、これまた当然といえば当然のことにありがたみを感じている。「泣かれた」といういわゆる「迷惑の受け身」で表現する行為が止んだことに対して、「てくれる」を用いている。これをドイツ語に翻訳する場合、単に「泣き止んだ」とするしかないだろう。日本語は、

迷惑や恩恵の授受を事あるごとにいちいち表現するのが好む傾向がある。¹⁶

3.2. 「てもらう」の訳し方

「てもらう」は「てくれる」同様、視点が恩恵の受け手（受益者）にあるが、異なるのは、受益者が文中で主格になる点である（「てくれる」の場合は、目的格）。「てもらう」は、働きかけ性の有無によって、使役的な意味合い（働きかけ性が有る場合）、あるいは受け身的な意味合い（働きかけ性が無い場合）になる。¹⁷ この区別がドイツ語訳にきれいに反映されているのが見られ、「てもらう」に使役と受け身両方の意味があることの傍証になる。「てもらう」の訳し方についてはこの2分類に添って文例を紹介する。

1. 使役的表現による
2. 受け身的表現による

3.2.1. 使役的表現による

使役的意味合いの「てもらう」は、ドイツ語の使役の助動詞 *lassen* を用いて訳されている。

(18) 言葉は悪いが、手練手管で傭兵を奮い立たせることができるなら、な

¹⁶ 作中人物（倉田康司）のせりふの中の表現であるが、そうされることが当然どころかさから下の、「マイナスの恩恵」あるいは迷惑とでもいうべき行為についても「てくれる」が使われている。日本語は、恩恵から迷惑まで、単に中立的に表現するのではなく、思いやりの有無をあくまでも明示したい旨語らしい。この例では独訳英訳とも「てくれる」を特に訳していない。

うちの取引先なんかに顔を出して、若奥さんの実家がこしらえた借金のおかげで難儀しているなんて、言ひ触らして歩いてくれましたよ。(452頁)

Sogar bei unseren Geschäftspartnern haben die sich blicken lassen und dort herumerzählt, dass sie wegen den Schulden, die die Familie meiner Frau gemacht hat, in Bedrängnis wären. (S.303f.)

They'd turn up at our clients' offices, going on about how tough things were for them because of the debts young Mrs. Kurata's family had run up. (p.235)

¹⁷ 山田（2004）：119, 135頁など。

にもわざわざ危険をおかして自分が戦争に出かけてゆくことはない。代わりに聞ってもらって、戻ってきたところを充分ねぎらってやればいいのだ。(449頁)

Negativ ausgedrückt könnte man sagen: Warum soll man selbst in die Schlacht ziehen und sich dabei in Gefahr begeben, wenn man einem Söldner bezirzen und ihn für sich kämpfen lassen kann. Es reicht ja, wenn man ihm bei der Rückkehr zur Genüge seine Dankbarkeit zeigt. (S.301)

As long as she had willing “knights” at her command, she could let them go charging off into battle for her, then shake them down when they came back with the spoils. (p.234)

(19) 一度ではわからなかったので、もう一度言ってもらった。まだわからない。(537頁)

Da er es beim ersten Mal nicht verstand, ließ er es sich noch einmal erklären, verstand es aber immer noch nicht. (S.357)

Honma got lost not far into Makoto’s explanation. The boy started again at the beginning three times, but never managed to reach the end. (p.274)

(18) も (19) も「てもらう」を訳すのに lassen を当てている。そして、恩恵の受け手を、(18) は für sich (英語は for her), (19) は 3 格の sich で明示している。

3.2.2. 受け身的表現による

受け身的な意味合いの「てもらう」の場合は、そのままドイツ語の受動態を用いて訳しているケースと、能動文に言い換えて訳出しているケースとが

見られた。

(20) (…), それと同じくらい強く、いなくなってしまったボケのことを打ち明けて、心配ないと慰めてもらいたいと思っていたのだろう。(124頁)

Aber ebenso sehr wollte er von dem verschwundenen Hund berichten und in der Sache getröstet werden. (S.86)

(…), but he also just wanted some sympathy over the dog thing. (p.69)

(20) は受け身的な意味をもつ「てもらう」に、ドイツ語の受動態 (werden + 過去分詞) を用いて対応している。英語は能動態で訳している。

(21) 和也は、生前の千鶴子にはずいぶん可愛がってもらっていたはずなのに、忙しいからと、葬式にも顔さえ出さなかった。(37頁)

Als Chizuko noch lebte, hatte sie sich immer sehr um Kazuya gekümmert, und trotzdem hatte er es mit der Begründung, er sei zu beschäftigt gewesen, nicht einmal geschafft, sich bei der Beerdigung blicken zu lassen. (S.28)

(21) は能動態へ変換して訳している例である。原文は「和也は千鶴子によって可愛がられた」という構文だが、ドイツ語訳は sich um ~ kümmern を用いて「千鶴子は和也を可愛がっていた」という能動文にしている。なお、英語訳はこのくだりを欠いている。

(22) (…), 今度は受付を通してもらうことができたが、(…) (543頁)

Diesmal hatte man ihn am Empfang durchgelassen. (...) (S.360)

This time the receptionist showed him in. (p.277)

(22) も能動態へ変えている例である。原文の主語にあたる人物を4格 (ihn) とし、man を主語にした能動文にして訳している。英語訳もやはり能動態に変換している。

3.3. 「てやる」の訳し方

「てやる (てあげる)」は、視点が恩恵の与え手 (与益者) 側にある点で、「てくれる」および「てもらう」とは異質である。ここでは与益者が文の主格になる。「てやる」の訳し方としては次のような対応が見られた。

1. 格表示による
2. 恩恵の与え手の示威的な態度を描写する

3.3.1. 格表示による

格表示によって与益者を明示する対応と、受益者を明示する対応が見られた。

(23) 手を貸してくれようとしたが、「大丈夫だよ」と言ってやった。(9頁)

Er wollte Homma zur Hand gehen, dieser sagte aber, es sei nicht nötig.

(S.10)

“(…),” the boy said as he hurried over to lend a hand. “I’m fine,” Honma assured him. (p.9)

(23) は恩恵の与え手を指示代名詞 dieser で強調的に示している。英語訳は Honma という固有名詞で主語を入れ、さらに say ではなく「請け合って言う」

の意の動詞 assure も併用して対応させている。

- (24) しおれていれば慰め、困っているようなら手を貸してやりたくなるよ
うな、はかない魅力を持っていたのかもしれない。(448 頁)

Wer niedergeschlagen ist, will getröstet werden, wer in Bedrängnis ist, dem
will man helfen: Vermutlich verfügte sie über diesen Liebreiz des
Zerbrechlichen. (S.301)

(...), and the hard time she'd had aroused their protective instincts. Her
pathos was seductive. Men *had* to come to her rescue, to shield this flower
in their hands. (p.233)

- (25) 薄い座布団をふたつ重ね、彼女が座る場所に置いてやる。(289 頁)

Er legte zwei dünne Sitzkissen übereinander auf ihren Platz neben der
Heizung, (...) (S.196)

(...), he set out two thin cushions next to the heater so that she could lean
back against the wall. (p.156)

(24) は指示代名詞 der の 3 格, (25) は所有の冠詞 ihr を用いて (英語は so
that 構文を用い, she を従属節の主語にしている), それぞれ恩恵の受け手を
明示している。

3.3.2. 恩恵の与え手の示威的態度を描写する

- (26) ポーチの柱に寄りかかって立ちながら, そう言ってやった。(90 頁)

»(...)«, erwiderte Homma, sich an den Stützpfeuern des Vordachs lehnd.
(S.64)

“(…),” Honma answered calmly, leaning up against a column in the entrance. (p.52)

- (27) 智は今まで、寝床のなかで、父親が帰ってきたらああ言ってやろうこ
う言ってやろうと一所懸命に考えていたに違いない。(120 頁)

Sicherlich hatte er, während er im Bett auf die Rückkehr seines Vaters gewartet hatte, hin und her überlegt, was er ihm wohl an den Kopf werfen sollte. (S.84)

Makoto must have been thinking his little head off in bed. Planning on this and that to say. (p.67)

(26) は「言い返す」も意味する動詞 *erwidern* を用いている。英語訳は副詞 *calmly* (平然として) を添えて表現に示威的なニュアンスを加味している。¹⁸

(27) は *ihm an den Kopf werfen* (頭に向かって投げつける, 面と向かって言う) という表現を用いることで、智という小さな子どもなりの示威的な態度のニュアンスを出している。¹⁹

4. まとめと考察

以上、『火車』で頻出する恩恵授受の補助動詞「てやる, てくれる, ても

¹⁸ 作中人物(郁美)のせりふの中の表現であるが, *ruhig* という副詞を添えることで対応している例もある。

「本気です。タモッチャンを使ってやって」(307 頁)

»Ja, sicher. Benutzen Sie Tamotchan ruhig.« (S.208)

“Honest. Please take him on.” (p.166)

ただしこの例の場合は「示威的態度」と呼ぶには抵抗があるが, 命令文(依頼文中)での使用なので, 自らの行為に使用するならば示威的態度につながる副詞が, 躊躇せずに行うと欲しさと相手を促すニュアンスを醸し出しているといえるだろう。

¹⁹ ただし, (27) は山田敏弘のいう「非恩恵型ベネファクティブ」で, 「意思を表すテヤル」の例と見なすべきかもしれない(山田(2004):第6章)。

らう」を用いた日本語表現が、直接これらに対応する補助動詞をもたないドイツ語にどのように訳されているかを、「てくれる」を中心に多数の例を挙げつつ見てきた。さまざまな工夫をこらしてケースバイケースで対応されていることが確認された。ここで再度、その結果を一覧にしたものを掲げておく。

「てくれる」の訳し方

1. 格表示による
2. 視点を逆にする
3. 恩恵の与え手の好意的態度を描写する
4. 特に訳さない

「てもらう」の訳し方

1. 使役的表現による
2. 受け身的表現による

「てやる」の訳し方

1. 格表示による
2. 恩恵の与え手の示威的な態度を描写する

「やる、くれる、もらう」というやりもらい表現のうち、「くれる」は類型論的に見て特殊なものであるが、この「くれる」を用いた補助動詞「てくれる」は、日本語話者が大変好む表現の一つに数えられるだろう。補助動詞なので、これを動詞につけ加えるだけで、受けた（受ける）恩恵を仰々しくなく表現できる。「てもらう」ほどの負担感はない。仰々しくないのも、そんなに軽い小さな思いやりにもマッチする。その際忘れてはならないのは「てくれる」が、他者から受けた思いやりに気づいていることの表明でもある点である。つまり、単に恩恵的行為が発生したことを表現しているのでは

なく、話者がそれを認識するに十分な、繊細な「思いやり認識能力」を所有していることをも表現している。

ここで、「てくれる」の用例について数量的なデータも挙げておきたい。『火車』の地の文に出現した「てくれる」は全部で104例あった。そしてそれを本稿での分類にあてはめると内訳は以下のようになる。

| 1. 格表示 | 2. 視点を逆に | 3. 好意的態度の描写 | 4. 特に訳さない |
|--------|----------|-------------|-----------|
| 41 | 10 | 14 | 39 |

4の「特に訳さない」という対応が4割近くで、ドイツ語においては、ある行為を日本語ほど恩恵のやり取りと結びつけて捉えないことが、この結果からも明らかに見て取れる。同様に4割近くを占めているのが、1の「格表示による」という対応である。確かに、格表示を補えば行為の関与者は明確になるが、それによって思いやりのやり取りのニュアンスがどの程度加わるものなのか、本論で示した例文からもうかがわれるように、その点については一概には判定し難い。2の「視点を逆にする」という対応もその点では同じである。しかし、日本語の「てくれる」のもつある種軽いニュアンスとその使用感覚を考えると、3の「恩恵の与え手の好意的態度を描写する」という対応では、恩恵授受のニュアンスが逆に過剰になってしまうケースも多いと思われる。上表中で1や4が大半を占める『火車』ドイツ語翻訳者の対応は、全体として適切といえるのではないだろうか。

日本語では、ドイツ語や英語などのヨーロッパの言語と比べて、事態をイマ・ココに存在する話者の「見え」のままに語る傾向が強いということが、

近年しばしば指摘されるようになった。²⁰ 本稿が取り上げた「てくれる」等を補助動詞として用いる恩恵授受表現は、恩恵のやり取りの方向性表示機能も併せもつため、ダイクシス表現などとともに、日本語の語りの視点を探る手がかりにもなるだろう。

話者の「見え」のままに語られた日本語文は、聞き手（読み手）によってその「見え」をたどるように追体験されていく。作中人物本間の視点をとった『火車』では、語り手は本間の意識に入り込んでその視点から語り、読み手もまた本間の意識に入り込んで事態を追体験していく。日本語話者がこのように楽々と他者の身に自分を重ねられるのは、日本語が文の主語を明示する義務をもたず、また動詞も主語に合わせて形を変えないことと無関係ではないだろう。主語が明示されていないから誰もがその立場に容易に身を置ける。一方ドイツ語は主語の明示が義務的であり、動詞も主語に合わせて人称変化する。

「見え」のままに語る日本語の表現は、実況中継的であるともいえる。日本語がオノマトペ²¹や、直接話法や自由間接話法など、直接的・感覚的表現を好み、得意とするのもこのためである。臨場感あふれる感覚的な語りや、聞き手（読み手）の追体験に効果的に働く。『火車』のドイツ語翻訳者も、宮部作品の魅力は登場人物を突き放さない温かい眼差しとともに、臨場感あふれる描写にあると、あとがきで述べている。²²

本稿では、宮部作品に顕著にうかがわれると金谷武洋が指摘した、日本語らしい「地上の視点」を反映するものとして、「てくれる」等を用いた恩恵

²⁰ 近藤/姫野（2012）や、竹内（2012）所収の成田論文、大酋論文を参照されたい。

²¹ 『火車』でもさまざまなオノマトペが効果的に使用され、作品の語り口をいきいきしたものとしている。本稿の元になった口頭発表の際には、恩恵授受表現とあわせてオノマトペのドイツ語への訳し方にも触れたが、本稿では紙幅の関係もあり、テーマを恩恵授受表現に絞って論じることにした。オノマトペについてはまた別の機会に取り上げることにしたい。

²² Degen (2011): S.390.

授受表現に注目した。日本語は世界でも類を見ないような「やりもらい表現」のシステムをもち、それを補助動詞としても利用して、思いやりのやり取りを表現するのに活用している。それにしても、日本語がこれほどまでに恩恵授受を表明することにこだわるのはなぜだろうか。

思いやりのやり取りは義務ではない。つまり、公的な規定にのみ則するならば、する必要のない行為である。本来的には、経済的見返りを求めてするものでもない。従って、これは契約重視の社会規範とはそもそもそぐわないものといえるだろう。日本社会は「間人主義」²³の社会としばしばいわれる。そのような社会では、意見そのものを直接戦わせず、対立を表立ったものにならないよう「腹芸」という繊細な調整能力を働かせて意見をまとめていく。外へ逃げられない狭い閉じた集団社会にあつては、何よりも人間関係の和が尊い。このような社会では、契約に明記されていない気配りが重視される。思いやりをやり取りし、そのやり取りを認識して表明することが重視されるのは当然であろう。

また、事態に対する自己制御性が低く、人為的なことさえ自然の成り行きと捉える傾向が日本語社会には見られる。池上嘉彦の言い方を借りれば、「する」ではなく「なる」的あり方をする人間は、能動的行為者ではなく、その身において何かが生じる場という受動的な存在である。人間がこのように受動的なあり方をする社会において、「てくれる」という表現が発達したのは不思議ではない。²⁴ そういう受動的あり方をする人間にとっては、外界（他者）

²³ 間人主義（かんじんしゅぎ）とは、浜口恵俊が『間人主義の社会日本』（1982年）で唱えた日本社会に特徴的な人々の行動原理。

²⁴ 『くれない族の反乱』というテレビドラマ（主演：大原麗子、田村正和。1984年にTBS系列で放映）が人気を博したことがあった。専業主婦が夫や子どもなどに対して持つさまざまな不満をテーマにした内容だったが、その不満が「自らは受益者で、与益者たるべき存在が十分な恩恵を与えてくれない」と表現（＝認識）されている点に、もっぱら他者からの恩恵を待つ受動的な存在だった当時の主婦のあり方がうかがわれる。なお、「くれない族」は1984年第1回新語・流行語大賞において、流行

から受ける行為は、ありがたいか迷惑かのどちらかとして受け止められることになる。これが、恩恵でなければ迷惑というある種極端な日本語話者の二分法的思考にもつながっているのではないだろうか。

先にも述べたが、日本語が事態を主観的に把握し、「見え」のままに言語化するという指摘がされるようになったのは近年、つまり20世紀も末になってからのことである。脱亜入欧を目指した明治期、第二次大戦後の復興期、欧米諸国に追いつけ追い越せの高度成長期には、日本人はヨーロッパの言語と日本語の相違に気づいたなら、それを日本語の劣る点として認識する傾向があった。²⁵ 21世紀を迎えそのような不必要な劣等感から抜け出せたことに、日本の国際化の成熟を感じる。

熊倉千之が「〈主観〉を本質とする日本文学：語り手の声が出出す世界」の末尾で、日本語の魅力を語っているくんだりを少々長くなるが紹介したい。

勿論この日本語の「私」的言説を決して否定的に見てはならない。西欧の〈objectivity〉が疑わしくなった「ポストモダン」の今日、また人間の頭脳とコンピューターの一体化（言いかえればコンピューターが人間の理性と感性の延長機能を果たす）が目論まれている将来、認知過程を「直接」言語化できる日本語の表現力が、この新しい技術の開発とその将来のために威力を発揮することが期待されるからだ。話し手の主観が

語部門の銀賞を受賞した。

²⁵ 鈴木孝夫は、明治開国期以来の日本人が自らの母語を否定的に見るような傾向について、開国後に直面した西欧文明こそ最善のもので人類の普遍的あり方やすべての規範を示すものと思いついたために、欧米の諸語が共通して持っている言語上の特徴、例えば単数複数数の区別、現在・過去・未来などの時制の明示、そして冠詞や関係代名詞などを持たない日本語は、言語として不完全で未発達段階にある劣等なものだと考えてしまったこと、また当時は西洋人自身が宗教をも含む西欧の文化文明、法律や社会制度、そして人種としての白人そのものまでが、人類の最も進化発達した段階であると臆面もなく主張していたことが背景にあると述べている（鈴木（2009）：20頁）。

「ココ」という現場で忠実に言語化される日本語、語り手の認知が「イマ」のリアルタイムで物語化される日本語の魅力が、世界的に認められる日がやがて来るだろう。²⁶

〈主観〉を本質とする日本語的発想が、〈客観〉を本質とする西欧語の世界でその魅力を認められる日がやがてくる、という熊倉のこの予言を、筆者は初め大言壮語のように感じたが、近年ヨーロッパ世界でも日本マンガやそれを元にしたアニメがブームを巻き起こしているのを見れば、それはもう始まっているのかもしれない。²⁷ さらに、自分が認知したイマ・ココの事態を発信する twitter という発信手段が瞬く間に世界中を席卷するのを目の当たりにするなら、さらに確信の度合いが深まってくる。また、川端康成の『雪国』の新しいドイツ語訳（2004年刊）や、2011年刊行の『火車』のドイツ語訳を見て、日本語の主観的事態把握を念頭においた翻訳がされるようになった傾向も感じられる。日本語の魅力が世界に認められる日は、確実に近づいていると言ってよいのかもしれない。

²⁶ 熊倉（2006）：34頁。

²⁷ 熊倉は日本語的発想とマンガの関係について、「日本人が「考える」ということは、意識にのぼる具体的なイメージを連ねていくことだから、「今は山中……」の心象風景は、手っとりばやくいえばマンガということになる。」と述べている（熊倉（1990）：166頁）。

使用テキスト

原作：宮部みゆき『火車』新潮文庫，2012年（70刷）。

ドイツ語訳：Miyabe Miyuki: *Feuerwagen*. Aus dem Japanischen übersetzt von
Ralph Degen. Berlin: be.bra, 2011.

英語訳：Miyuki Miyabe: *All she was worth*. Translated by Alfred Birnbaum. New
York: A Mariner Book, 1999.

（英語訳の初出は1996年）

参考文献

庵功雄（2011）：「日本語教育から見たやりもらい表現」『日本語学』2011年
11月号，50-58頁。

池上嘉彦（1981）：『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジー
への試論』大修館書店。

池上嘉彦（2006）：「〈主観的把握〉とは何か：日本語話者における〈好まれる
言い回し〉」『言語』2006年5月号，20-27頁。

井上健（編）（2012）：『翻訳文学の視界：近現代日本文化の変容と翻訳』思
文閣出版。

金谷武洋（2010）：『日本語は亡びない』ちくま新書。

熊倉千之（1990）：『日本人の表現力と個性：新しい「私」の発見』中公新書。

熊倉千之（2006）：「〈主観〉を本質とする日本文学：語り手の声が出出する
世界」『言語』2006年5月号，28-34頁。

近藤安月子/姫野伴子（2012）：『日本語文法の論点43：「日本語らしさ」のナ
ゾが氷解する』研究社。

ジェレヴィーニ，アレッサンドロ・G / よしもとばなな（2002）：『イタリア
ンばなな』日本放送出版協会。

鈴木孝夫 (2009) : 『日本語教のすすめ』新潮新書.

竹内義晴 (編) (2012) : 『翻訳という問題から見えてくる言語, 文化, 人間』
日本独文学会研究叢書, 第 85 号.

村上春樹/柴田元幸 (2000) : 『翻訳夜話』文春新書.

山田敏弘 (2004) : 『日本語のベネファクティブ : 「てやる」「てくれる」「て
もらう」の文法』明治書院.

山田敏弘 (2011) : 「類型論的に見た日本語の「やりもらい」表現」『日本語
学』2011 年 11 月号, 4-14 頁.

Degen, Ralph (2011) : Nachwort von *Feuerwagen*. Berlin: be.bra, S.387-393.

**Was ist eine typisch japanische „irdische Perspektive“?
— Anhand einer Gegenüberstellung von Miyabe Miyukis Roman
„Feuerwagen“ mit der deutschen Übersetzung —**

MIYAUCHI, Nobuko

Miyabe Miyuki ist eine der berühmtesten und populärsten Schriftstellerinnen im Japan der Gegenwart. Seit einem Vierteljahrhundert schreibt sie sehr aktiv und zugleich erfolgreich. In ihren Werken kommen keine absolut bösen Menschen vor. Diese positive Weltsicht der Autorin ist wahrscheinlich ein Grund ihrer Popularität. Ein japanischer Linguist in Kanada namens Kanaya Takehiro behauptet, in Miyabes Werken lässt sich eine typisch japanische „irdische Perspektive“ feststellen, die das japanische Gefühl repräsentiert.

Im Japanischen verwendet man Verben wie YARU (geben), KURERU und MORAU (bekommen) nicht nur dort, wo man konkrete Dinge gibt oder bekommt, sondern auch als Hilfsverben (TE-YARU/TE-KURERU/TE-MORAU) dafür, wo man jemandem eine Wohltat erweist oder von jemandem eine Wohltat annimmt. Besonders KURERU ist typisch japanisch. Das Verb KURERU bedeutet einen Akt des Gebens, aber vom Benefaktiv her gesehen. Eine Sprache, die so ein Verb hat, mit dem sich dies explizit ausdrücken lässt, ist selten.

In der japanischen Gesellschaft reagiert man sensibel darauf, ob man eine Wohltat gibt oder empfängt. Daher benutzt man Hilfsverben wie TE-YARU/TE-KURERU/TE-MORAU sehr gern. Insbesondere sind Ausdrücke mit TE-KURERU beliebt. In Miyabes Werken findet man daher dieses Hilfsverb häufig. Das dürfte ein charakteristisches Merkmal für die „irdische

Perspektive“ im Japanischen sein.

Der vorliegende Beitrag behandelt, wie die Ausdrücke mit diesem Hilfsverb in Miyabes Roman „Feuerwagen“ ins Deutsche übersetzt wurden, um die irdische Perspektive des Japanischen im Vergleich mit dem Deutschen, dessen Perspektive nicht irdisch sondern eher von oben gesehen ist, klarer zu erkennen.

Weil man auf Deutsch Verben wie geben oder bekommen nicht als Hilfsverben für Geben oder Empfangen von Wohltaten benutzt, und es sonst keine genau entsprechenden Hilfsverben gibt, wurden Formulierungen mit den Hilfsverben (TE-YARU/TE-KURERU/TE-MORAU) Fall für Fall anders übersetzt. Das Ergebnis der Untersuchung, wie sie übersetzt wurden, ist folgendes:

1. die Ausdrücke mit TE-KURERU

- 1) durch die klare Schilderung des Benefaktivs
- 2) durch den Austausch des Blickwinkels
- 3) durch die Beschreibung des netten Benehmens des Wohltatgebers
- 4) dem Kontext überlassen

2. die Ausdrücke mit TE-MORAU

- 1) mit dem Verb „lassen“
- 2) durch passive Ausdrücke

3. die Ausdrücke mit TE-YARU

- 1) durch die klare Schilderung des Benefaktivs
- 2) durch die Beschreibung des demonstrativen Benehmens des Wohltatgebers

Warum lieben aber Japaner diese Ausdrucksweise? Warum reagieren sie so sensibel darauf, ob man eine Wohltat gibt oder empfängt, dass sie diese

Ausdrucksweise ständig verwenden müssen? In einer Gesellschaft wie Japan, wo viele Menschen auf engem Raum leben müssen, ist das Verhältnis zu anderen Menschen äußerst wichtig. Ohne freundschaftliche Beziehungen zu Anderen, ohne Unterstützung von Anderen kann man sein Leben nur schwierig meistern. Es ist daher kein Wunder, dass in einer solchen Gesellschaft sich die oben genannten Ausdrucksmittel vielfältig entwickelt haben, weil das Geben und Empfangen von Wohltaten sowie deren Würdigung und entsprechende Ausdrücke dafür ein wirkungsvolles Mittel ist, gute Beziehungen zu Anderen aufzubauen.